

序 文

東京大学医学部

井 上 英 二

本報告書は、昭和52年度の「遺伝・環境要因による心身障害の予防に関する研究」の研究報告書に続く第2年度の報告書である。

この研究班は、昭和52年度に編成された第二次遺伝研究班が担当して行なわれた。この第二次遺伝研究班の編成に先立って、昭和49年から3年間共同研究を行なった第一次遺伝研究班の成果は、昭和49年度の「母子の健康と遺伝的要因に関する研究」、昭和50・51年度の「心身障害の発症予防に関する遺伝学的研究」の各研究報告書として刊行、配布された。一方、この第一次遺伝研究班の成果は、各分担研究者、研究協力者によって、約370篇の学術論文として報告され、さらに遺伝相談事業および先天性代謝異常スクリーニングという明確な形で、昭和52年10月より国民に還元されている。

昨年度発足した第二次遺伝研究班はこの第一次遺伝研究班の成果に鑑み、遺伝学とその関連科学を応用した心身障害発症予防の研究を一そう推進するために組織され、共同研究を開始したものである。この共同研究は今後さらに1年間継続され、その成果は来年度改めて刊行される予定である。本書が、既刊の報告書および今後刊行される予定の報告書とともに、今なお国民の重い負担となっている心身障害の予防方策を樹立する際の資料として活用されるならば大きな喜びである。

この研究班の計画策定および運営と本報告書作成に当って一方ならぬお骨折を頂いた半田順俊教授（和歌山医科大学）、渡辺巖一教授（新潟大学）、松永英部長（国立遺伝学研究所）、北川照男教授（日本大学）および和田義郎教授（名古屋市立大学）の各幹事、客観的立場よりご指導賜った井関尚栄所長（科学警察研究所）、高原滋夫教授（川崎医科大学）、田中克己名誉教授（東京医科歯科大学）の各評価委員、莫大な量の事務処理をお願いした経理担当者津田威氏と清水郁子氏に深甚の感謝を捧げたい。

 **検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用 
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

本報告書は、昭和 52 年度の「遺伝・環境要因による心身障害の予防に関する研究」の研究報告書に続く第 2 年度の報告書である。

この研究班は、昭和 52 年度に編成された第二次遺伝研究班が担当して行なわれた。この第二次遺伝研究班の編成に先立って、昭和 49 年から 3 年間共同研究を行なった第一次遺伝研究班の成果は、昭和 49 年度の「母子の健康と遺伝的要因に関する研究」、昭和 50・51 年度の「心身障害の発生予防に関する遺伝学的研究」の各研究報告書として刊行、配布された。一方、この第一次遺伝研究班の成果は、各分担研究者、研究協力者によって、約 370 篇の学術論文とし報告され、さらに遺伝相談事業および先天性代謝異常スクリーニングという明確な形で、昭和 52 年 10 月より国民に還元されている。